

研究開発投資を加速化

コスモビューティー社長語る

大阪で新社屋を取得

ー 前期3月期決算の状況は。

「売上高は前の期の200億円から8%アップの216億円で利益は微増。何とか連続の増収増益をクリアできたものの、取り巻く環境は厳しい。原料・諸資材価格や労務費・物流費の上昇、さらに包装仕上げ等の外注コスト価格の高騰など、諸々の要因が複合的に重なり、利益的には非常に厳しく、1年だった。また、当社はこれまで小ロット多品種の、比較的利益率の高いO

ー 「前期を1年通して見た時に、数字として伸びた

る」

ー 新規がスタートし、

ー 研究開発投資で具体的に予定していることは、「大阪本社にあるメイン

の研究室が手狭になつてい



代表取締役社長
山添 隆氏

化粧品OEM大手、コスモビューティーの山添隆社長は4月24日、東京・成増の東京本社で本紙のインタビューに応じ、同社の3月期決算の状況や今後の戦略、また、大阪本社の移転計画など縦横に語った(聞き手は川口副編集長)。

決算 売上高216億円に

ー 3月期

増収増益を確保 中国売上 げが伸長

「これからはますます利

益率を維持していくことが難しくなることも想定しており、それに対してもクラ

イアントが当社に仕事を依頼する必然性をさらに示す必要がある。それは、ヒッ

ト商品のネタであったり、コスモビューティーだけにしかない独自技術であったり、そういうものに磨きをかけていくことがカギにならっている」

ー 昨年の中間インタビューでは、中国におけるクライアント獲得と国内通販メーカーの受注獲得が業績に寄与したようだが。

ー 「前期内に注力、または新たに計画していること

ー 最後に、市場に向かって、大阪の工場は柱

一般 受託 制造 産業 横欄

ー ここから、現在の大日本社を全て研究所にする計画を進めている。ちょうどこ

の4月に大阪地下鉄・谷町四丁目駅を出てすぐの場所(大阪府大阪市中央区内本町1丁目1-1)にある11階建てのビルを取得。7月末までに本社の関連部署を移転し、同時に内装工事等を行なながら1年ぐらいをかけて本社移転を行いたいと考えている

ー 関東と関西の2か所で進めている新工場建設計画の進捗状況は。

「埼玉の新工場は既に着手しており、オープンは来年予定。大阪の新工場は年内に着工する準備を進めている。埼玉の工場は、大

型受注にも対応できる工場として、大阪の工場は柱

ー た工場で、作ったバルクはベトナム工場で充填する方針だ。当面、日本国内で中身の製造拠点を拡張し、充填・仕上げ等はマンパワーが充実しているベトナム工場を活用していく方針は変わらない」

ー 最後に、市場に向かって、大阪の工場は柱

ー 用まで考えていきた。また、複数の原料メーカーさんと、原料開発を化粧品の応用まで考えていける取り組みを共同で進めており、引き続き注力していく」

PRしたいことは、「昨年は特許を3件、大きな知財的成果が得られたので今年も3~5件の特許